

第2部 基本構想

第1章 まちの将来像

本町は、兵庫県の南東部、阪神都市圏の北部に位置し、町域の8割を占める猪名川溪谷県立自然公園などを背景に、町南部丘陵地は大規模な住宅地として開発が進み、緑とともに暮らす快適な住宅都市として発展してきました。

住民の猪名川町における暮らしの満足度は、居住エリアにより差はあるものの、比較的高い傾向にあります。住民の多くは、豊かな自然環境と快適な住環境の調和に魅力を感じており、まちへの愛着と幸福感は高い状態にあります。

しかし、若年層と高齢層では、猪名川町に住みたいと思う人は減少傾向にあり、定住か転居かを決めかねている人が増加しています。これは、若年層では進学・就職後の通学・通勤手段、高齢層では日常的な通院、買い物際の移動手段としての公共交通への不安など、これからの猪名川町での暮らしに対する不安・焦りが拡がりつつあることが要因と考えられます。

本町では、魅力あるまちづくりの実現のため、地域の個性を活かした特色のあるコミュニティづくりとともに、住民と行政の協働による取り組みを推進してきました。

これまでの協働による取り組みは、主に行政から住民や地域・団体等に呼びかけや依頼などを行い、協力・連携するというパターンが多く見られましたが、協働の考え方が波及するとともに、町内では、住民主体の多様な活動が展開されるようになりました。また、活動に取り組む人・団体や活動などをつなぎ、拡げていくような取り組みも生まれています。

そして、年齢に関わらず住民の3人に1人は、まちづくりをはじめとする地域の活動・行事に担い手として参加したいという意向を持っており、若年層でも地域活動などに主体的な参加意向を持つ人がいることから、これからの猪名川町を創りあげていく住民の力を感じることができます。

今後、さらなる少子化・高齢化の進展、本格的な人口減少とともに、社会経済情勢がこれまで以上に大きく変化していくことが予測されます。そのような中、本町では、豊かな自然環境と快適な住環境の調和がとれた住宅都市という面を大切にしながらも、それだけにとどまらず、猪名川町という舞台で、住民一人ひとりが自分自身はもとより、仲間や地域の持つ可能性にチャレンジでき、自分らしくいきいきと暮らしていけるまちをめざしていきます。

そして、そのようなまちこそ、住民にとっては「住みたいまち」であり、町を出た人や町外の人にとっては「帰りたい・住みたいまち」「気になる・関わってみたいまち」であり、猪名川町での幸せな暮らしにつながっていくと考えます。

これからのまちづくりは、主に行政主導による協働や、多様な主体が個々に取り組みを進めていくというこれまでのパターンに加えて、新たな協働による取り組みが必要となります。

言い換えれば、多様な主体が互いの個性や価値観を認めあい、緩やかにつながり、ネットワークを構築していくことで、自分ごととして、新たな価値・魅力や課題解決に向けた取り組みを創りあげていくことが求められています。

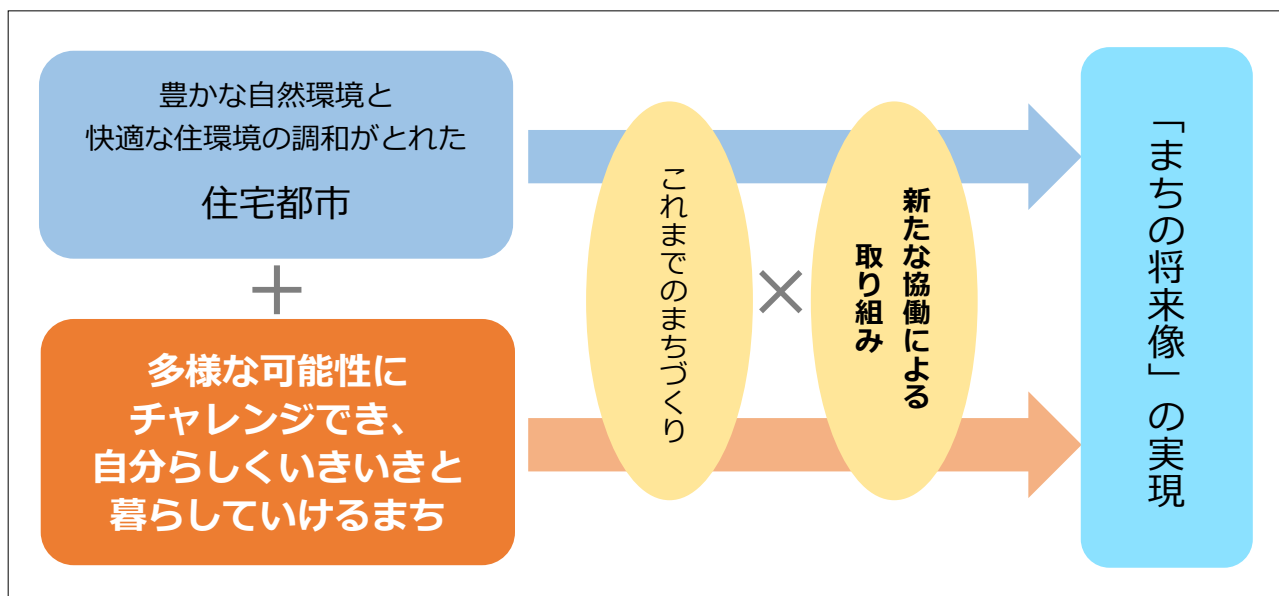
また、行政は、このようなまちづくりを進めていくためのコーディネーターとしての役割を担っていく必要があります。

本町では、住民一人ひとりのもとより、多様な主体、行政がともにめざし、ともに創りあげていく 2029 年度（令和 11 年度）の「まちの将来像」を次のように掲げます。

まちの将来像

“つながり”と“挑戦” 幸せと笑顔あふれるまち 猪名川

【第六次総合計画・基本構想のイメージ】



第2章

まちの将来像の実現に向けた方向

2029年度（令和11年度）の「まちの将来像」を住民一人ひとりとはもとより、多様な主体、行政がともにめざし、ともに創りあげていくためにも、行政の施策分野を基準に考えるのではなく、本町を取り巻く現状・課題や住民のまちへの想いなど、現実の猪名川町の姿に立脚した6つの「まちづくりの方向」と、その6つをしっかりと支えるための2つの「基盤づくりの方向」を併せて設定します。

「まちづくりの方向」と「基盤づくりの方向」については、施策分野別の縦割りではなく、横断的な取り組みとして、関連する施策分野が積極的に連携を図りながら推進していくこととなります。



1. まちづくりの方向

1 交流・活力をうみだす まちづくり

～猪名川町内、猪名川町外の人・モノ・コトをつなげて、活かす。～

本町においても、全国的な傾向と同様に、少子化・高齢化やライフスタイルの多様化などの様々な要因を背景に、近所づきあいや地域コミュニティの希薄化が進んでいます。また、町内の色々なエリアでは、まちづくりや地域活性化などに関する多様な活動も展開されており、それらの連携・循環による地域力のさらなる向上が求められています。

地域における人と人、団体と団体、活動と活動、地域と地域など、町内でのあらゆる人・モノ・コトのつながりを積極的に支援することで、新たな価値・魅力や課題解決に向けた取り組みの創出をめざします。

また、猪名川町の魅力に磨きをかけ、新たな魅力を創出し、発信することで、交流人口や関係人口などの拡大を図るとともに、地域経済の活性化に向けた取り組みとも連動して、『交流・活力をうみだす まちづくり』を進めます。

2 誰もが挑戦・活躍できる まちづくり

～誰もが自分の可能性、地域や猪名川町の可能性にチャレンジできる環境をつくる。～

まちの将来像の実現に向けて、住民一人ひとりはもとより、町を出た人たち、町に関係する人たちが、猪名川町という舞台で、挑戦・活躍できる環境づくりが非常に重要となります。また、これからのまちづくりには、現状を維持していくだけではなく、様々な可能性に挑戦していく姿勢も求められています。

町内では、まちづくりや地域活性化をはじめ、多岐にわたる分野で挑戦・活躍している人、団体・組織があり、これから挑戦・活躍したいと考える住民もいます。その一方で、若者を中心に町内での「働く場」「しごと」の確保・創出が大きな課題となっています。

誰もが自分の夢や希望、まちの将来像の実現に向けて、挑戦・活躍していけるよう、必要な仕組みづくりや、雇用機会の創出や創業支援・起業支援などの取り組みを展開し、『誰もが挑戦・活躍できる まちづくり』を進めます。

3 人を大切に育てる まちづくり

～猪名川町への愛着・誇りを育み、まちの現在・未来を担う人を育む。～

まちづくりの主演となるのは「ひと」であり、住民一人ひとりは猪名川町の大きな財産です。本町の子育て世代では、猪名川町での暮らしに満足しているものとして、子育てのしやすさを挙げる人が多く、今後の子育て支援・教育への期待も大きくなっていることから、次代を担う子どもたちをしっかりと育むため、子育て環境・教育環境の整備と充実を図ります。

また、住民一人ひとりがまちへの愛着・誇りを持ち、夢や希望の実現に向けてチャレンジし、いきいきと充実した生活をおくっていくためにも、生涯を通じて学び、学んだ成果を地域で発揮できる仕組み・環境などを整備・拡充していきます。

そして、子どもから大人まですべての住民が、猪名川町という舞台で輝き、まちの現在、未来を担っていけるよう、『人を大切に育てる まちづくり』を進めます。

4 健やかにくらせる まちづくり

～これまで培われてきた健康寿命をさらに伸ばし、生涯現役と自分らしい暮らしの実現につなげる。～

少子化・高齢化そして人口減少社会が進行する中で、健康寿命を延ばし、誰もが生涯現役で過ごせるまちをめざしていくことが重要となります。

猪名川町の住民の幸福感は全国的にも高い状態にあり、その判断事項として「健康であること」が挙がる中で、本町は兵庫県内でも高い健康寿命を誇っており、健康が住民の幸福感に大きな影響を与えていることがうかがえます。今後も、保健や医療、介護などの連携の強化を図り、健康寿命の延伸に取り組みます。

さらに、これまでの「支え手」「受け手」という関係を超えて、住民一人ひとりや地域の多様な主体がともに支えあう「地域共生社会」の実現をめざすことで、年齢や障がいの有無、国籍などに関係なく、誰もが、『健やかにくらせる まちづくり』を進めます。

5 自然と共生し快適にらせる まちづくり

～みんなの誇り「豊かな自然」と「快適な住環境」を両立していく。～

清流猪名川をはじめ、豊かな里山など自然を身近に感じることができる本町では、自然環境に対する住民の満足度が非常に高くなっています。また、周辺環境と調和した良好な住宅地など、住環境に対する住民の満足度も同様に高く、四季折々の豊かな自然環境と快適な住環境の調和が本町の大きな魅力となっています。

この自然環境は、農林業や観光などの基盤となっており、地域の活性化や交流人口・関係人口の拡大などに向けて大きな可能性を秘めているといえます。

持続可能な社会に向けて、豊かな自然環境の保全・創造はもとより、地域の活性化や子育て環境の充実といった視点から自然と人の共生を図るとともに、居住環境に優れた市街地形成や生活利便性に優れた魅力ある里山・田園集落の整備などに取り組み、『自然と共生し快適にらせる まちづくり』を進めます。

6 安全・安心を守る まちづくり

～公共交通・防災・生活インフラ、現在そして未来の猪名川町での暮らしへの不安を解消する。～

まち全体の住みやすさについては多くの住民が満足しており、まちへの愛着や幸福感も高い状態にありますが、公共交通や防災・防犯などの安全面に対するニーズは非常に高くなっており、これからの猪名川町での暮らしを支える重要な役割を果たすものといえます。

公共交通・移動の問題については、現在そして未来の猪名川町での暮らしについて住民が抱く不満・不安、その他の多くの課題につながるものであり、町の実情にあった公共交通の実現をはじめ、暮らしや地域活動を支えるための交通環境の整備などに取り組みます。

また、本町の地域特性を踏まえつつ、「強さ」と「しなやかさ」を持った防災対策の強化や地域の防災力の向上・育成、防犯・交通安全対策などを推進し、地域全体で住民の安全・安心を守る取り組みを展開します。さらに、日常生活を支える道路や上下水道などの生活基盤の維持・確保を図ることで、『安全・安心を守る まちづくり』を進めます。

2. 基盤づくりの方向

A まちづくりの主体性と多様性を確保する仕組みの構築・強化

～誰もが熱く・楽しく・継続してまちづくりに取り組める仕組みを創り、運用する。～

まちの将来像の実現に向けた「まちづくり」を進めていくためには、まちづくりの主役である「ひと」、つまり住民一人ひとり（もしくは団体・組織）や、暮らしの場である「地域」の主体性と多様性を確保していくことが重要となります。

そのためにも、住民・地域など多様な主体や行政などが、営利・非営利などの立場や、世代、地域を超えて、まちづくりを「自分ごと」と捉え、知恵や力を出しあいながら、まちづくりに参加・参画できるよう、「人づくり」「場づくり」「仕組みづくり」などを進めます。

また、里山・田園集落やニュータウンなどの市街地、まちづくり協議会単位や自治会単位など多様な地域・エリアで、その特性や抱える課題などにきめ細かに対応できるまちづくりを推進していくためにも、その中心的な役割を担うまちづくり協議会の自主性を尊重し、活動を支えていくとともに、他団体・組織との連携・協働を促進します。

B 持続可能なまちづくりに向けた行政経営

～あらゆる面でまちの将来像の実現に向けた取り組みをバックアップできる行政経営をめざす。～

地域の資産・資源を活かした持続可能なまちづくりを推進していくためには、健全で効率的、効果的な行財政運営が重要となります。

少子化・高齢化、人口減少社会の進行、経済情勢の変化などにより、歳入面での縮減が進む一方で、歳出面では社会保障関連経費や老朽化が進む公共施設への対応費用などの増加が予測されています。

限られた財源の中で、まちの将来像を実現していくためにも、組織や人材のマネジメントを強化するとともに、「選択と集中に基づく中長期的な戦略の推進」と「社会経済状況の急速な変化への迅速な対応」に柔軟に取り組むことができる行政経営基盤を確立していきます。また、住民の利便性の向上と行政運営の効率化を図るためにも、ICTのさらなる利活用を進めていきます。

さらに、住民サービスの提供とともに、広域的な課題対応などを図るため、周辺市町との連携・協力を図っていきます。

本町の総人口は緩やかに減少しています。

人口動態をみると、近年、出生数を死亡数が上回る“自然減”、転入者を転出者が上回る“社会減”の状況が続いています。転出者はほぼ横ばいに対して、転入者は右肩下がりの状況が続いています。

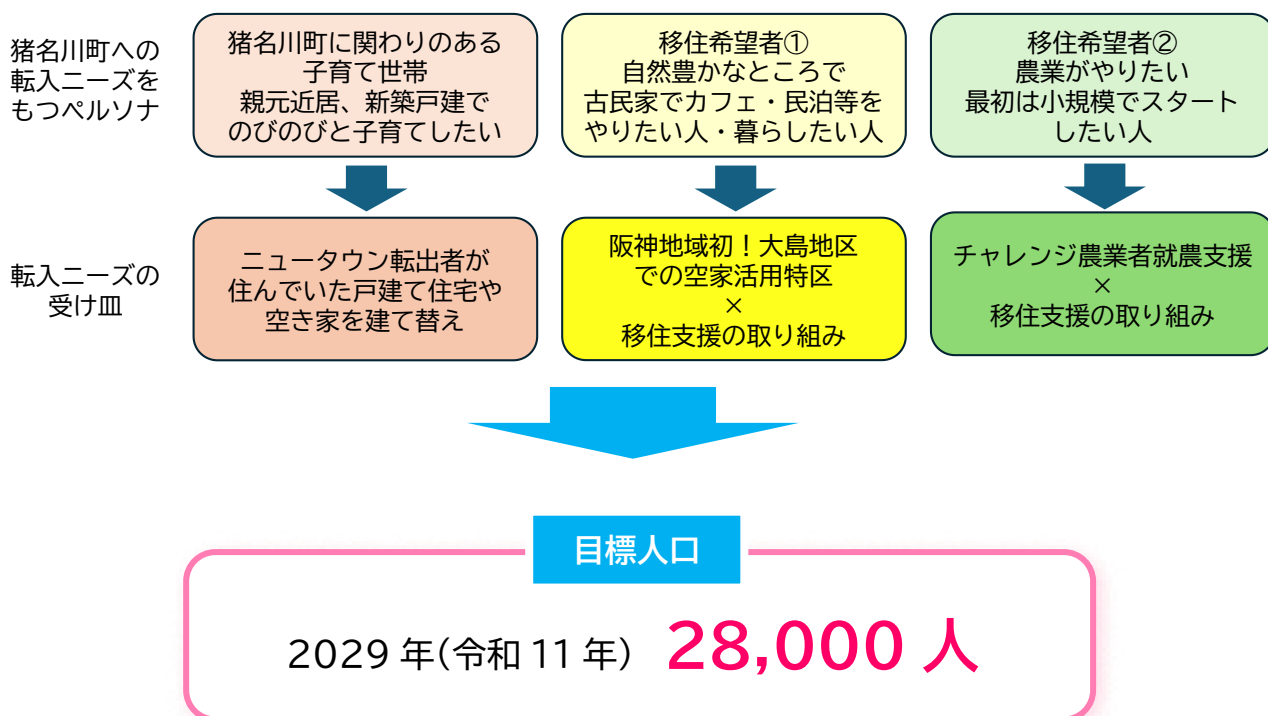
結果、国立社会保障・人口問題研究所が行った2023年（令和5年）推計では、今後も人口減少は続くと推計されています。

そのため、基本構想では、目標人口を2029年（令和11年）で30,000人としていましたが、社会動向の変化や現在の人口動態を踏まえて、以下のような「人口減少抑制＝転入促進に関するストーリー」を掲げ、目標人口の見直しを行うこととします。

＜目標人口の設定にあたって（人口減少抑制＝転入促進に関するストーリー）＞

本町の豊かな自然を活かし、のびのび子育てできる環境や、自然環境を活かした新たな働き方の支援、チャレンジ就農などを促進するとともに、本町の魅力発信を行うことで、転入促進を図り、本計画の目標人口を28,000人と設定します。

人口減少抑制＝転入促進に関するストーリー



目標人口の設定にあたっての考え方

○2023 年 9 月末住民基本台帳人口を基準とし、国立社会保障・人口問題研究所による推計の諸係数（純移動率・生存率、合計特殊出生率は2020 年町の実績）を用いて推計すると、2025 年で28,696 人、2030 年で27,413 人、2040 年で24,723 人になると推計されます（社人研推計）。

○空き家の有効活用や子育て支援の充実、就農支援など、本町の魅力を活かした施策の展開により社会減を抑えていきます（目標人口）。

【イメージ】

☆ニュータウンで新築物件や空き家物件を活用し、転入者を促進

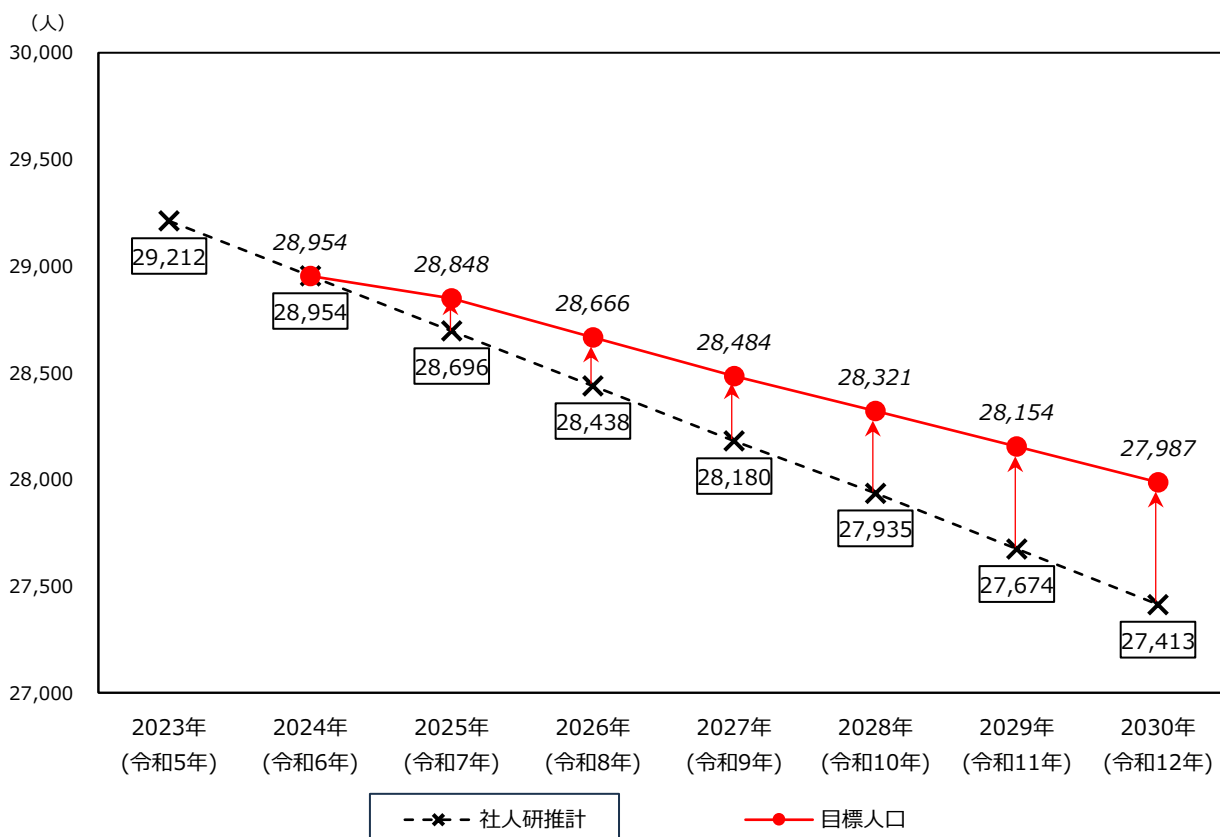
(30 物件/年×3 人×5 年＝約 450 人)

☆起業希望者及び就農希望者の夢をかなえる

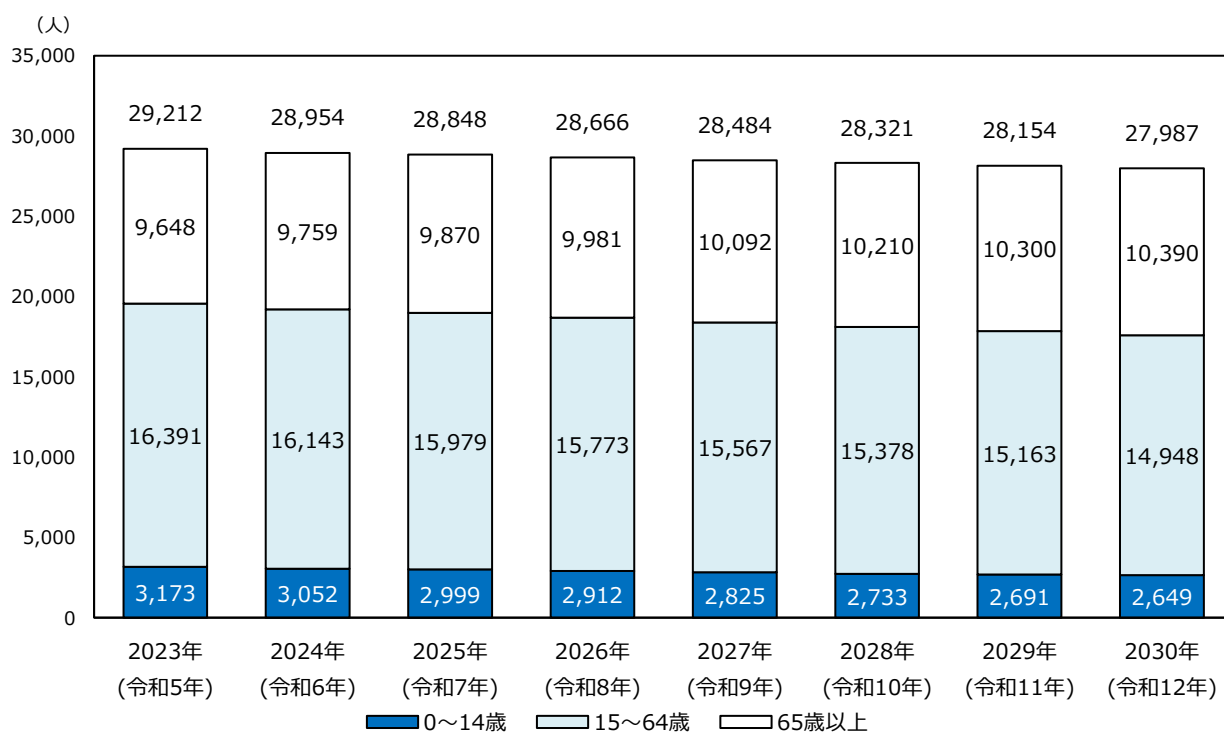
(5 人家族/年×5 年＝約 25 人)

計 約 475 人の増を図る

【目標人口（総人口）】



【目標人口：年齢3区分別人口】



【目標人口：年齢3区分別人口・構成比】

